

# 令和7年度 第1回宮崎市地域公共交通会議 議事録

□日時：令和7年11月26日（水）10：00～10：50

□場所：宮崎市民プラザ 4階 ギャラリー2

□配布資料

- ・次第
- ・資料（議案1 AI活用型オンデマンドバスの実証実験について）

□結果

- ・議案1 承認

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

## 3 議事

### 【事務局】

- ・本会議は委員の過半数以上の出席がなければ会を開くことができない。  
本日は委員20名中16名出席。本会議が成立していることを報告。

### 議案1) AI活用型オンデマンドバスの実証実験について

【事業者説明】※資料に沿って内容を説明（主な説明内容や補足内容は以下のとおり。）

#### ●背景と目的

- ・一般路線バスの利用者は人口減少などにより年々低下
- ・物価高騰などにより収支状況も厳しく、運転士不足も深刻化
- ・のり一と導入の目的は、新規顧客の獲得と運転士不足の解消  
路線バスの補完機能と新しいサービスの提供を目指している。

#### ●既存エリアの運行実績

- ・第1エリア（恒久・田吉地区）：2024年3月実証実験開始、2024年4月本格運行へ移行
- ・第2エリア（月見ヶ丘・源藤地区）：2025年3月実証実験開始、実証実験継続中
- ・両エリアの共通エリア：宮交シティ周辺（資料P4の黄緑エリア）
- ・利用実績  
恒久・田吉地区で乗客者数が中長期的に積み上がっている。  
月見ヶ丘・源藤地区は、導入当初の2.7人/日から、10月時点で45.2人/日に大幅増加  
※増加要因：無料キャンペーンの実施（9/15～10/31）と路線バスのダイヤ見直し
- ・利用者の年代  
両エリアとも70歳代、80歳代の利用が約60%と多い状況
- ・登録者数  
2,324人（10月末時点）、70歳代が多い傾向

#### ●第3エリアの候補概要（希望ヶ丘・国富ヶ丘エリア）

- ・エリア：希望ヶ丘・国富ヶ丘エリア（既存の月見ヶ丘エリアに隣接）
- ・結節点：宮交シティまでの移動を含む形での接続を予定
- ・運行期間（※資料訂正あり）：2026年3月1日から2026年8月31日
- ・運行時間：9時から17時まで（現行エリアと同じ）
- ・運賃（予定）：「希望ヶ丘・国富ヶ丘エリア内」300円、「共通エリアまで」500円
- ・選定理由：高齢化率が高い、交通結節点（宮交シティ）へのアクセスが良い、  
運行地区が密集しており地域交通としての定着が図りやすい、  
同一営業所区域内（宮崎南営業所）での効率的な運行運営が可能

## ●課題と取組

- ・高齢者にとっての予約方法（スマホ）のハードルの高さ、高齢者の乗り物という認識
- ・若年層や学生への周知強化、各地区での説明会の実施

## 【県からの説明】

- ・路線バスのAIデマンド化の事業を令和5年度からの3か年事業として支援している。
- ・利便性向上と路線バスの運行効率化を通じた持続可能性の向上が目的
- ・事業者の地道な取組みの結果、利用者も徐々に増加している。
- ・運転士の多様な働き方につながるとして評価されており、運転士不足の解消や緩和への期待を寄せている。
- ・まだ様々な課題が出てくる段階だと思うが、関係者で連携、対応し、将来的な実装や社会問題の解決にもつながれば良いと考えている。ご理解とご協力をお願いしたい。

## 【質疑】

### ●質疑1

- （委員）月見ヶ丘・源藤地区の実証実験から本格運行への移行時期は。  
（事業者）来年4月1日に本格運行に移行する予定である。

### ●質疑2

- （委員）共通エリアの範囲について、今回のエリア（希望ヶ丘）まで延伸されないのか。  
（事業者）今回のエリアも宮交シティを交通結節点として、既存の共通エリアを組み込んで運行する計画。共通エリアの区域には変更等ない。

### ●質疑3

- （委員）国富ヶ丘から宮交シティまでのバス料金は。  
（事業者）路線バスは340円。宮交のるーとでは500円を予定している。

### ●質疑4

- （委員）導入エリアを渡って利用がされると、タクシーと同じ使い方がされ、すみ分けが難しくなる。宮交のるーとは、路線を区域運行に変えて宮交シティに繋ぐという認識を確認したい。  
（事業者）宮交のるーとは路線バスの補完という位置づけで進めていきたいと考えている。

### ●質疑5

- （委員）運行ルートや各ミーティングポイントの利用実績等を集約したデータを開示いただくことは可能か。  
（事業者）ミーティングポイントの利用データは集約しておりお見せできると考えている。

### ●質疑6

- （委員）バスとタクシーのすみ分けに関して、宮交のるーとは集団輸送と個別輸送の間くらいの乗り物と解釈しているが、タクシー事業者もジャンボタクシーは持っており、乗合の免許もほとんどの事業者が持っている。グループ会社である宮交タクシーとの間で、すみ分けに関する話は出ているか。  
（事業者）タクシーであればドアtoドアというのがありますが、宮交のるーとは路線バスの補完というところになるため、あくまでもミーティングポイントでの乗降となる。また、グループ会社の宮交タクシーとも話しながら進めているところ。

### ●質疑7

- （委員）70歳代、80歳代の利用が多いが、宮崎市の敬老バスカの利用はどうか。  
（事業者）宮交のるーとでも敬老バスカの利用は可能である。

#### ●質疑8

(委員) 50歳代、60歳代の登録者は比較的多いが、利用が少ない理由は。

(事業者) 宮交のるーとの運行時間は9～17時であり、通勤通学で路線バスを利用する10歳代から50歳代までには利用しづらく、主に高齢者層の利用が多くなっていると分析している。

#### ●事業者から

- ・全国的には当社と同じシステムを利用したオンデマンド交通が複数導入されているが、その多くは自治体主導であり、宮崎交通のように民間主導で、かつ黒字路線があるエリアの路線を効率化し転換していく例は珍しいと聞いている。
- ・5年後、10年後の人口減少や運転士不足を見据えた新しいモビリティ導入であり、相当な覚悟を持って臨んでいる事業である。
- ・まだまだ潜在需要はあると考えている。自治会連合会などの協力もいただきながら、地道な活動を続けていきたい。
- ・タクシー業界とのすみ分けに関しても、お客様からは宮崎駅や橘通まで行ってくれたら利用しやすいという声もあるが、我々としては宮交シティを交通結節点として、路線バスやタクシーなどの利用につなげていきたいという思いがある。宮交シティを共通の乗り入れ施設と考えており、これ以上の延伸は今のところ考えていない。

## 4 その他（事務連絡）

## 5 閉会